

《掛川地域力向上委員会総会開催》

去る 5 月 7 日（土）午後 2 時から掛川小学校体育館で地域力向上委員会総会が行われ、掛川小学校全校児童と地域の太鼓クラブの方たちのすばらしい太鼓の演奏から始まりました。会長あいさつのあと、平成 27 年度「事業報告」「会計報告」、続いて平成 28 年度の会長以下新役員並びに、「事業計画」「会計予算」が承認さ



れました。とくに事業報告では、「かけがわっ子ひろば」設立に対して保護者から感謝の言葉があり、事業計画では感想や意見などの発言もあって有意義な総会となりました。

その後、来賓の紹介とあいさつを受けました。市議会議員戸田由久さんからは、『総会、ご苦労様です。地域力向上委員会と保護者で運営している「かけがわっ子ひろば」はケーススタディとして各方面から注目されています。がんばってください。』との励ましの言葉をいただきました。午後 3 時 50 分に終了。地域の出席者は 101 名でした。

みなさん、こんにちは。掛川地域力向上委員会も 3 年目に入りました。長年の懸案事項であった「かけがわっ子ひろば」ができ、保護者の方々に喜ばれています。高齢者グループの「お助けたい」、コミュニティーグループの「掛川マップ」作りを進めています。掛川地域力向上委員会が地域発展のために活動できるように努力していきたいと思っています。



加藤俊男会長



伊藤保徳市長

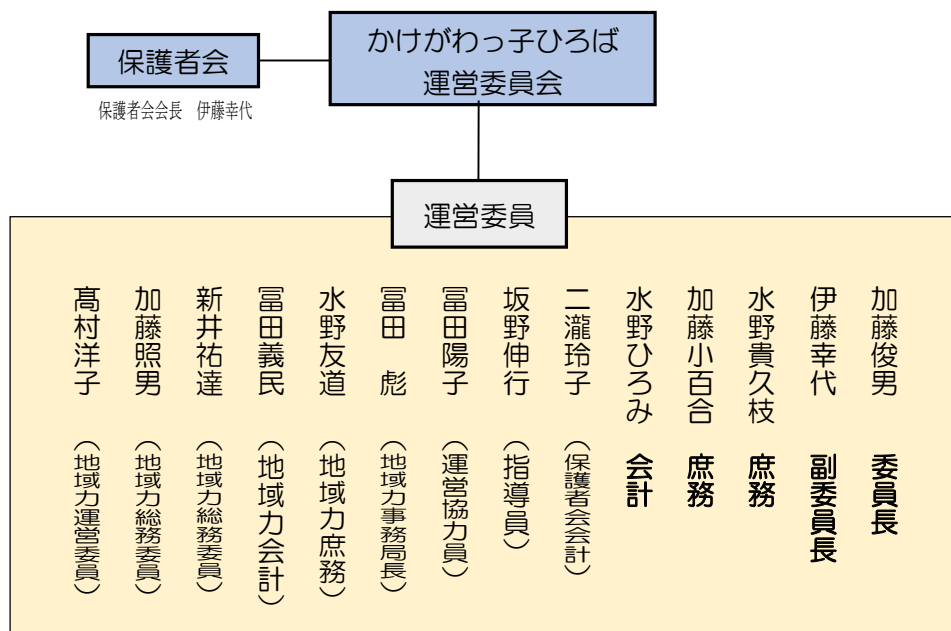
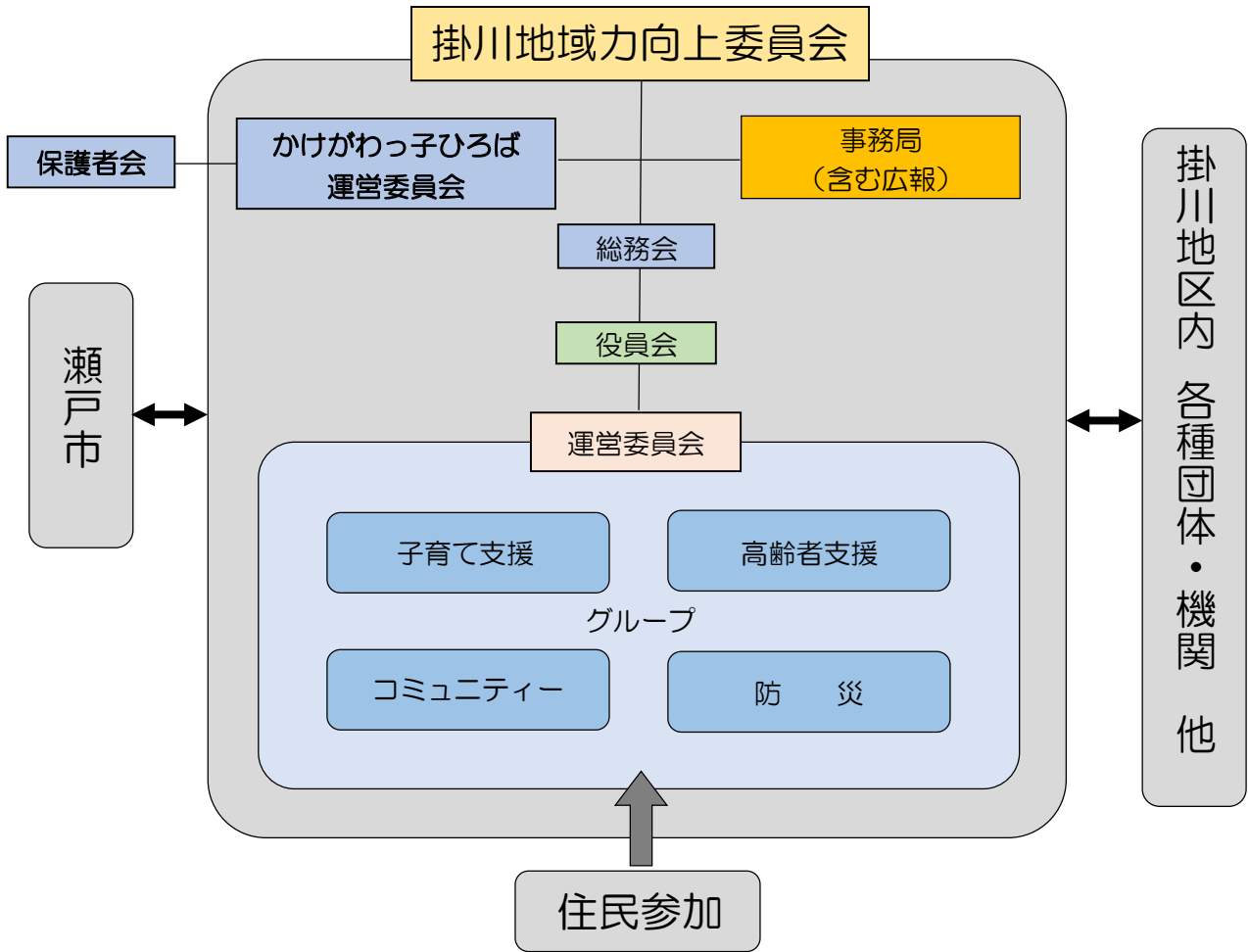
こんにちは。太鼓がすばらしかった。昨年 5 月 1 日に市長になって 1 年が経ちました。昨年 10 月には市内でもアスクールが二つ誕生しました。掛川地区では地域力向上委員会に委託という形で始まりました。半年前、元NHKアナウンサー村上信夫さんの講演会に来ましたが、楽しい 90 分間を過ごしました。

今年は韓国利川市と友好姉妹都市 10 年に当たり、利川市の瀬戸焼き物展を訪れました。韓国の学芸員が徳川義直公、定光寺のことを説明され大変驚きました。掛川地域力向上委員会がますます発展されることを祈念しています。

平成28年度 役員・会計監査・運営委員が決まりました

会 議		役職名	定光寺町	備 考	下半田川町	備 考
運 営 委 員 会	総 務 会	会 長	加藤 俊男	楽友会会長	*	
		副 会 長	加藤 令元	27年度自治会長	早川 治彦	27年度自治会長
		事務局長	*		富田 彪	広報部長
		総務委員	川井 信一	コミュニティーG副長	新井 祐達	
			加藤 憲夫	防災G副長	加藤 照男	
		庶 務	水野 友道		*	
	会 計	*		富田 義民		
	常任委員	小林久仁於	28年度自治会長・高齢G副長	前田 守正	28年度自治会長	
		中野 勲	公民館運営委員長	水野 辰美	公民館長	
		近藤 晴夫	コミュニティーG副長	水野 隆久	防災G長	
*			近藤左千夫	コミュニティーG長		
*			水野貴久枝	子育てG長・小P副会長		
会計監査		山田 稔		水野 勝年	老人クラブ副会長	
運 営 委 員 会	運 営 委 員	水野 一好	28年度自治会副会長	早川 和彦	28年度自治会副会長	
		瀧本 広男	東 総務委員	吉川 寛	自治会区会	
		松平紀久雄	中 総務委員	水野 嘉明	自治会区会	
		井上 俊幸	西 総務委員	富田 直久	自治会区会	
		中野 洋子	婦人防火クラブ会長	早川 英樹	自治会区会	
		村井 秀子	婦人防火クラブ副会長	奥村由紀美	婦人部長	
		柴田 昭治	防災リーダー	巖嶋志津子	婦人副部長	
		平野 正英	防災リーダー	早川 忠司	防災リーダー	
		水野 賢一	自警団長	櫻井 直博	防災リーダー	
		水野 啓太	自警副団長	富田 真治	自警団長	
		尾崎 広明	自警副団長	水野 澄利	自警副団長	
		春田 綾子	楽友会副会長	早川 直彦	老人クラブ会長	
		柴田 昌乃	民生児童委員・広報部副部長	前田美津子	民生児童委員	
		永田 明子	保健推進委員	吉川 則子	保健推進委員	
		尾崎 祐子	小学校P副会長	加藤 晴仁	小学校P会長	
		中村登志子	小学校P副会長	杉浦 江美	子供会会長	
		保田 伴奈	子供会会長	新井 靖代	子供会副会長	
		水野ひろみ	子供会副会長	安藤 安明	コミュニティーG副長	
		堀尾 文枝	子育てG副長	伊藤 幸代	かけがわっ子保護者会長	
		大脇佳代子		水野 牧美	老人クラブ女性部長	
		水谷 美元		富田 幹夫	広報部副部長	
		稲垣 幸子		安藤ます美		
		高村 洋子		前田 晴美		
		水野 将弘		富田 孝		
		加納慎太郎		前田 春敏		
		水野 房子		前田修一郎		
		宮田 全裕		早川 紀彦		
		尾関 孝雄		安藤 早苗		
		*		欄 穂高		

平成 28 年度 掛川地域力向上委員会組織



瀬戸の名木(掛川地区)

『瀬戸の名木』が1997年に瀬戸市教育委員会によって出版されました。瀬戸市で94本の名木が選ばれた中で、下半田川町で6本、定光

寺町で21本が選ばれています。

今回は下半田川町八剣社のヒノキを紹介します。最近の計測で幹周りが345cm、高さが30mでした。瀬戸市で最大のヒノキです。樹齢は不明ですが、樹木医によって約300年と推測されました。明治時代にスギの大木が伐採されましたが、このヒノキはご神木として大切にされています。神社がある丘の斜面を削って階段と石垣が築かれました。この時にヒノキの太根が切断されたので、この根で養水分を供給されていた枝と幹上部が枯死しました。しかし、40年前の写真と比較して、生存している枝の葉の密度は濃くなっています。幹が傾いていますが、生きています。太い根と南側に伸びた枝で均衡を保っています。



下半田川町八剣社の大ヒノキ

地域見て歩き

3月13日(日)、品野台交流センター主催事業の「地域見て歩き」が行われました。参加者は総勢28名。

掛川地区のオオサンショウウオ生息地と源敬公廟所が見学ポイントに含まれていて、掛川地域力向上委員会からも5名が参加しました。源敬公廟所は元瀬戸市歴史民族資料館館長の山川一年さんに解説をしていただきました。



源敬公廟所の見学



下半田川タウンウォッチング

4月24日に下半田川タウンウォッチングが開催されました。せと・まるっと環境クラブの主催で26名が参加しました。下半田川町は市街地で失われた昔の文化や伝統が現在も継承されています。また自然環境に恵まれています。八剣社の東方の「いしょうじ」に1400年ごろに建立された宝篋印塔が祀られています。「いしょうじ」と妻神社の間にある富士宮神社には5つの祠が合祀され

ています。その一つに元禄時代、笠原との国境争論に活躍した孫九郎が祀られています。

会員の声 “上の運動場”のこと

下半田川町 富田 恒

富田恒さんは、昭和 17 年 4 月に掛川国民学校に入学し、戦後の学制改革により昭和 22 年度に 6・3 制が始まったばかりの掛川小学校第 1 回卒業生。当時の思い出を上上の運動場を中心に綴ってもらいました。“上の運動場”については、やまびこ 7 号の掛川小学校シリーズ「幻の校舎」に詳しく載っています。

“上の運動場” 掛川小学校に学んだある年代の者にとって懐かしい響きをもった言葉であろう。それとともに運動場から遠望する棚田の美しい富士の一軒家を思い出される人も多いと思う。ゴルフ場となって今はもう見ることのできない藁屋の風景は下半田川町の早川和彦さん宅に水彩画として残っている。眺めていると走り廻った後、何気なく振り返って見た美しい山家の思いで胸が熱くなる。



早川和彦さん宅に残っていた水彩画「富士の一軒家」
(昭和 21 年ころ市之倉在住の教師 故土本孝次郎氏が描いた作品)

私が上の運動場で初めて走ったのは、太平洋戦争開戦直前の昭和 16 年 10 月 16 日（木）。秋祭り翌日の運動会で次年度入学予定の幼児競技に参加したときである。

その後戦争が激化し、食糧増産が叫ばれ運動場の一角を耕してサツマイモを育てることになった。昭和 19 年 6 月 7 日（水）、堅い土を掘ると瓦の破片が大量に出た。台風による校舎倒壊の事実を知ることになる。その年の 12 月 7 日（木）

午後 1 時、1,223 名もの死者が出た東南海地震に遭う。体操の時間に集まっていたみんながしゃがみ込んでしまうほどの揺れであった。

上の運動場が一番輝いた瞬間は「やまびこ 10 号」で半ノ木出身の大島登子さん（旧姓加藤）が書いているように卒業生の誰もが強い思い出のある運動会であろう。

6 年生になった昭和 22 年 10 月 16 日（木）は自分にとって小学校最後の運動会の日であった。下半田川と定光寺（当時は沓掛）を 4 地区に分けた対抗リレーは、応援に一段と力が入った。この年は下半田川の川東組が優勝した。私たちはチームの最終ランナーとして走った同級生の前田増男くんが受け取った優勝旗を先頭に誇らしげに下校したものだ。その優勝旗は翌年の運動会で返還されるまで前田君の家を飾ることになる。

運動会での楽しみの一つに弁当の時間がある。戦後の混乱の中、食糧事情はいくらか好転していたものの、満足できる時代ではなかった。秋祭りの残りのごちそうを隣の人たちと囲んだのは懐かしい味の思い出である。

上の運動場へ登る坂道は今でもはっきりと思い描くことができる。走って上り下りした赤土の坂道。80 歳を超えた現在はどうだろう。最初のカーブで早くも一休みか。

※ 学校行事の日にちは掛川小学校沿革史による。



恒例の筍まつり

4月29日、恒例の筍まつりが定光寺境内で開催されました。今年で10回目になります。

前日は雨の中、35名が筍掘りに参加し、1000kg余り(約1200本)の筍を収穫しました。当日は筍販売に42名が参加して200袋以上の筍を販売し、今年も10万円余りの売り上げがありました。

お寺さんから振舞われた温かいワカタケ汁が好評でした。

売り上げの中から必要経費を差し引いた純収益のうち、30,000円を熊本地震義援金として中日新聞社会事業団を通して届けました。皆様のご協力ありがとうございました。

なお、筍まつりは今まで4月29日に開催していましたが、筍の生育状況の変化などを考慮し、次年度からは原則として4月第4日曜日とすることにしました。したがって次回の第11回筍まつりは4月23日(日)になる予定です。



筍の集荷作業と袋詰め



にぎわう筍の廉売

4月1日よりお助けたいが発足しました

- ・お助けたいの要請がある場合は下記へ連絡ください。
また、お助けたい員になってもいいと思っておられる方は是非下記へ連絡ください。

お助けたいの要請先・お助けたい員の応募先 (下記連絡先のほか、高齢者支援グループのメンバーでも結構です。)

下半田川町 前田純二 電話 48-4434

定光寺町 小林久仁 電話 48-5273

- ・現在のお助けたい員登録数：30名余り
- ・今年度中に、お助けたい員の作業用ベストをつくる予定です。



編集後記

今年度は以下7名のスタッフで広報を担当します。
「やまびこ」に対するご意見・要望等あれば、遠慮なく広報部までご一報ください。 E-mail: Kakegawatiikiriyoku140510@gctv.ne.jp

富田 彪(部長) 富田幹夫(副部長) 柴田昌乃(副部長)
稲垣幸子 富田義民 欄 穂高 村井秀子